

皆さん、こんにちは。今日は私の人生の中でもととて素晴らしい最高の日の一つです。

今日こうして中国残留孤児、残留婦人となって、本当に大変厳しい人生を乗り越えてこられた皆様から、このような感謝の会を開いていただきまして、私のほうこそ改めて感謝申し上げます。

先程ご紹介がありました通り、訴訟という長い戦いが全国各地で行なわれました。もしこの訴訟がなかったら、私は今日の良き日を迎えることができなかつたと思います。日本の多くの国民も、それから福田総理も含めて、私どもも、中国残留孤児や残留婦人の皆様が日本に帰ってから、こんなにも引き続いて苦勞の毎日を過ごしておられるということについての認識をできなかつたかもしれません。そういう意味で、改めて先程お話がありました、池田さんをはじめ、全国原告団の皆様の今日までのご努力に敬意を表します。

何年か前に、日本ではNHKの連続ドラマで「大地の子」という番組がありました。皆さんご覧になったでしょうか。私どもも涙を流しながら見ました。だけど実際に体験をされた皆様は、あの陸一心はまだ恵まれたほうだということも伺いました。私はそのことを思うにつけ、あー今日まで時間が経ってしまったことに改めてお詫びを申し上げます。

もっと早く日本に帰ることができたなら、もっと違った、もう少し豊かな人生を過ごすことができたろうに、もっと誇り高い人生を送ることができたろうに、そのことを思います時に、遅くなったことをお詫びしながら何とか間に合えてよかったな、そのように思っています。

ちょうど皆様は私と同じような年齢です。私は1941年10月生まれ、家内は1944年3月生まれです。池田さんも1944年のお生まれです。もし人生の運命が変わっていたならば、私が皆様の立場だったかもしれない。いま一つ私がこの問題に我が政治生命をかけてもやり遂げなければならぬと思ったことが一つございました。それは家内の父、野田武夫でございます。日中国交正常化前から、日中は本当に仲良くしなければならぬ、ということで、やっておりましたが、この日中問題については熱心に井戸を掘った人物の一人です。その後、私も受け継いで国会にでました。

日中関係の仕事は、私も今、社団法人日中協会の会長を致しておりますし、家内は、中国留学生の友の会の代表世話人を致しております。

私はもう中国には50回ほど行っております。友人も多くおります。その中で或る時、非常に気になる言葉を中国の友人から聞きました。その友人が悲しそうな顔をして私に言ったことは、「日本の人は恩知らずです」というものでした。「養父母の方々はまだ随分歳をとられました。そしてもう会えないかもしれないのに見舞いにも来ない。」ということでした。けれど、その後、その原因がわかりました。帰国者の多くの皆様は、ある程度年配になって帰っていますから、日本語が十分にできない、そのためにまともな仕事ができない、そして厳しい生活を送っておられる。中には生活保護を受けざるを得ない方もたくさんいらっしゃいました。皆様は中国におかれてはいろいろな立派な仕事もしてこられて、日本に帰ったら、すばらしい貢献を日本人として尽くしてみたいという思いを持って帰ってこられたのに、言葉が通じない、生活習慣も違うことによって、そういう仕事に就けないということが、非常に厳しい生活を余儀なくされた、その結果、中国に行きたくてもお金がない、そして仮に行ったとしても、日本に住んでいないという理由で生活保護を打ち切られてしまう。そんなひどいことだったと言う事を、後で知りました。私は厚生省の人に厳しく言いました。けれど彼らは、生活保護があるからいいではないか、という。私は、あなた方はそれでも人間か、と行って何度も怒鳴りました。皆さんが、戦争の混乱の中で、日本人の子として生まれたことによって、本当に中国で大変厳しい環境の中で生活をされ、そして又、日本に帰ってからも尚、又厳しい環境の中で生活をせざるを得ない。ということについて、私どもはもっと早くその実態を理解して、もっと早くきちんとした対策を立てなければならなかった。遅すぎるかも知れないが、今からでも遅くない、全力を挙げて、支援策を根底から、組み立てをやり直そう、そういう決意をしたわけであります。皆さんが日本人に生まれてよかった、そして人間としての尊厳、日本人としての尊厳を、これから遅ればせながら、何とか守って生きていけるような支援策を作りたい、そう思ってまとめました。しかし、まだ十分とはいえないかもしれません。しかし、どうか私は、これからあとの人生足らざるところがあれば、わたくしも一生懸命お手伝いをさせていただきますが、どうかこの後、日本と中国の架け橋となって、是非、明るく前向きに人生を歩んでいただければ嬉しいです。熊本県においても、県の残留孤児の対策協議会をお作り頂いて、そして色々、友達、交

流を増やして、そして少しでも周りの方との交流を増やすことによって、人生の幅を広げて楽しくしていくというご努力を頂いているということに感謝申し上げながら、皆様にも御礼申し上げる次第でございます。どうぞ、がんばってください。昨年10月に県の残留孤児、残留婦人の皆さんから、「順天在民」と書かれた額を頂きました。その上に重ねて、今日、本当に池田会長さんはじめ、福岡、高知、広島、富山、大阪、など各地からわざわざ熊本まで、お運びいただいて、このようにして会を催していただきまして、私は政治家として当たり前のことを、遅ればせながら、やったことなのですけれども、ただこうやって皆様が喜んでおられる姿を見ると、私は、政治家冥利に尽きます。本当にありがとうございました。どうぞ皆様のこれから、今までの分を取り返すよう幸せな人生でありますよう、お祈り申し上げながら、御礼の挨拶にさせていただきます。